

項目		説明
試料・情報の利用目的及び利用方法	研究課題名	がんのゲノム体細胞変異・遺伝子発現量を予測する類似病理組織像検索システムの構築
	研究目的	人工知能（AI）を用いた機械学習による解析を、日常的に病理医が診断に用いる病理組織標本に利用して、遺伝子変異との関連など、これまでにない新たな病理診断学分野の確立を目指した研究です。病理診断に用いた組織標本を、バーチャルスライドと呼ばれる機械で精細な画像として取り込み、この画像が含む情報と、既に判っている病理診断結果、遺伝子変異検査結果、その他の臨床情報との関連をAIで解析していきます。
	研究対象者	2010年1月から2024年3月までの間に、当センターで、がんの生検や手術を受けた、病理組織診断が施行された患者さん。
	研究期間	西暦 2020 年 12 月 14 日 ~ 西暦 2028 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物（尿・便） <input checked="" type="checkbox"/> デジタル化した病理組織画像 <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の管理について の責任者	当センター 研究責任者	宮城洋平
試料・情報を 利用する者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	病理診断科、臨床研究所がん分子病態学部／がん治療学部
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	東京大学大学院医学系研究科・衛生学 研究責任者：石川俊平

改訂 2024/4/24